

走りつづけた1年間 また走る来年?



2007.12.17

明治大学・法政大・慶応大講師
株式会社サイエンスハウス代表取締役
飯箸泰宏



1. 還暦を越えて

- 今年61歳になりました。
- この歳になって、まだ迷うこと悔やむことの多い一年でした。
- 例年になく、自分では「走った」歳だったような気もしています。
- 走らせていただいた皆様に感謝いたします。
- 今日「忘年会」ですから、総集編をお話したいと思います。
- これからも、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



2. 走ってきたこと

- 2-1. 当社の後継者へのバトンタッチ作業
- 2-2. 大学の非常勤講師
- 2-3. 久しぶりの書籍編集実務
- 2-4. 某耕地での農業振興策の構想作り
- 2-5. 障害者自立支援事業の調査構想作り
- 2-6. Karettaの書籍原稿審査委員
- 2-7. 日本語プログラミングコンテストの支援・後援
- 2-8. ゼミ生の架空会社による学習の試み
など

2-1. 当社の後継者へのバトンタッチ作業

■ 前方政策(顧客の維持と獲得)

顧客の拡大へ: 新規顧客の開拓を、後継者スタッフ主導で進めたこと。1社成功。
ホームページ: 改訂作業中、年明け早々にリニューアルオープンの予定。

■ 社内政策(社内強化)

アルバイト生の充実: ゼミ生を中心にアルバイト生を増やした。就職に有利な技能研修、民学コラボの目的も果たす
安価サービス用のソフト開発: 自社製品開発に10年ぶりくらいに取り組む。
財務: 金融機関との関係を強化して財務体質を改善した。

■ 後方政策(後方支援の確保)

協力システム会社を拡大: 「上海」「ホーチミン市」「山形県」「大阪府」などに広げた。
関連会社の再開: 休眠していた4つの関連会社のひとつ「(株)メディアベース松戸」を再開した。

■ 海外政策(海外にバリューネットを広げる)

上海とホーチミン市に足がかりができた。

■ 学術政策(学術に貢献して、知恵をいただく)

SH情報文化研究会: 今回を含めて年内3回開くことができた。
飯箸が様々な学術分野に細々と参加した。



2-2.大学の非常勤講師

- 慶応義塾大学
商学部「情報処理論」 2コマ連続講義
- 明治大学
全学共通「情報基礎論」 1コマ
情コミ学部「問題発見ゼミ」 1コマ
「情報デザイン論」 1コマ
「情報システム論」 1コマ
次年度「高度情報リテラシー」 1コマ←新規に追加
- 法政大学
工学部「電算機概論 - 」 2コマ連続講義 →消滅の予定
- 次年度 国士舘大学←新規に追加
理工学部「WEB情報デザイン論」 1コマ
全学共通「情報リテラシー」 1コマ



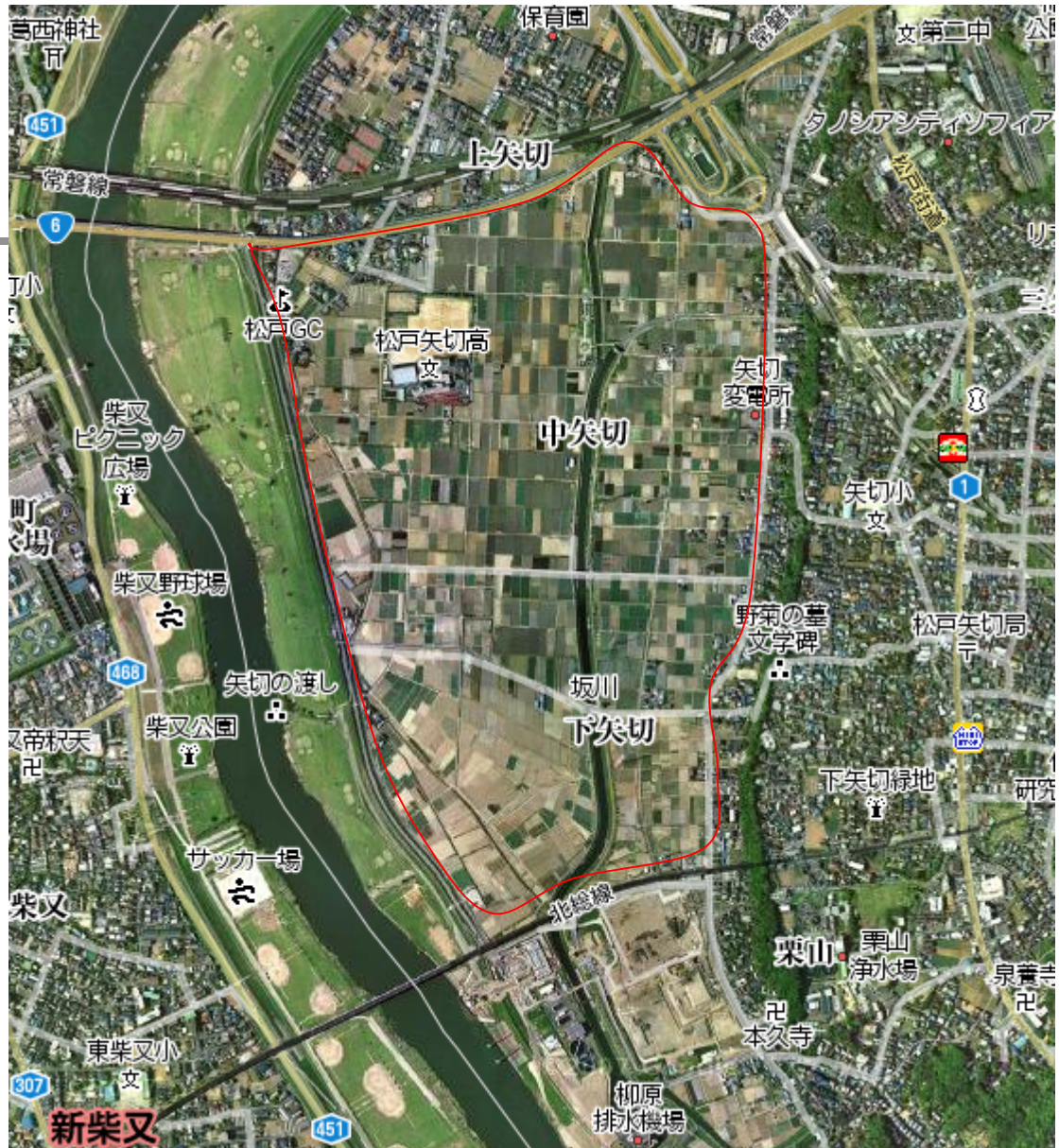
2-3. 久しぶりの書籍編集実務

- 27年間のブランクを乗り越えて、書籍編集実務を行った。27年間は企画にしかタッチせず編集実務は他人まかせだった。
- 当社は、27年前の創立時、システム開発業務50%+書籍出版業務50%の会社として始まった。当時は珍しい会社だった。
- 今は、売り上げベースで、システム開発業務98%+書籍出版業務2%という文字通りの「システムハウス」になっている。
- 書籍出版業務は私が大卒後10間出版社に勤務した名残で、当社の企業としての「品位の証明」のためだけに存在する事業である。
 - × 「IT企業はホ××××のようなヤクザが多い」
 - 「学術出版をする企業は真面目である」
- 英文の「統合医療」関係のProceedingsの編集を担当した。見本本を回覧します。本文と表紙のデザインも私が担当、著者らに絶賛いただいた。

2-4. 某耕地での農業振興策の構想作り

- 農家と耕地のサステナビリティ(久遠)を考える構想である。まだ詳しくは言えない段階である。
- もともとは、千葉大古在学長と私の個人的会話から始まった地域連携政策である。地元市役所のほうが今は熱心である。
- 「植物工場」、「高度化ハウス」、「職人芸的露地栽培」、「オープンガーデン(観光農園+)」を中心にすえている。
- 植物工場については、すでに事業化している嶋村社長のお話をこれからお聞きします。
- 農家には高齡、後継者難という困難があり、一方では農転(農地の宅地化)抑止という国策上の大命題がある。
- 耕地内には不法産廃場が多数見られる。
- 地元自治体にはお金はないので、予算ゼロ構想である。

- 矢切耕地
- 120H
- ネギの産地
- 常磐線で東京から千葉に入ると右手に広がる広大な緑の地



2-5. 障害者自立支援事業の調査構想策定

- 厚生労働省の補助金事業である。私は助言要員。主要な委員は「職リハ」の研究者。委員長は松為信雄神奈川県立保健福祉大学教授。
- 私は、障害者の問題に二十年以上直面してきた。
- システムの開発現場は過酷な労働現場で、精神異常を発症しやすいところでもある。実際、身近に発症した人を抱えるケースが散発的にあった。あるときは、精神科の医師に「環境の良い部署に配置換えしろ」と叱られたりもした。しかし、社内にはプログラムを書くこと以外の部署はないので、悩みながら、「心にも良い職場を探そう」と四苦八苦してきた。社内で発症した人のうち、その後が判明している二人については、食品業(新潟の蕎麦屋さんと赤羽のおでんダネ製造業)の現場で元気に働いていることが分かっている。職種変更を嫌う人は、同業に転職を試みる傾向があり、良い結果になっていないと推定される。
- 対象となる障害者には、身体障害者のほかに、精神障害者、知恵遅れ、高度機能障害者がいる。
- これらの人の継続雇用とりハビリ、職能教育の継続のためには人材派遣業がふさわしいという助言提案をしています。
- 「企業戦士である必要がない」という働き方が望ましい。
- とりわけ農業関連事業は「心にも良い」ので、農業派遣は治療効果の点でも望ましいと考えている。



2-6.Karettaの書籍原稿審査委員

<http://karetta.jp/article/blog/karetta-award-2007/210703>

2007.12.14 「karetta.jp で本を書こう！大賞」の受賞作を発表。

** 大賞(賞金30万円)

- 「無添加生活やってみよう～お金をかけず”脱”石油系界面活性剤～」(katzeさん)

-- URL: <http://karetta.jp/book-cover/natural>

-- 累計5万visit

** 佳作(賞金各10万円)

- 「ガーデニングBerry奮闘記」(ちゃあさん)

-- URL: <http://karetta.jp/book-cover/gardening>

-- 累計3万visit

- 「株価予想のためのフィルタ技法入門」(安藤利和さん)

-- URL: <http://karetta.jp/book-cover/filter>

-- 累計3万visit

- 「すばらしき哉IT業界」(comohikoさん)

-- URL: <http://karetta.jp/book-cover/wonderful-IT-industry>

-- 累計5千visit

**** 藤原博文(タイムインターメディア)**

「無添加生活やってみよう」はネタとして面白いし、実践方法や写真も載っていて、読者が確かめることも可能な身近な題材であり、現在多くの人に関心を持っているところがとても良かった。アクセスが多いのもうなずけます。

「株価予想のためのフィルタ技法入門」は多くの株の解説書と異なり、フィルタ技法を適用し、実際に学習させどうということになったかを具体的に書き、プログラム、それもソースコードの公開まで行っているという点がとても評価できます。

技術的解説には、図だけでなく数式も現れ、読み進めるには一定の能力が必要です。タイトルに「技法入門」とあるように、かなりしっかりした技術書です。

ただし、かなり専門的な本です。

**** 飯箸泰宏(サイエンスハウス)**

「ガーデニングBerry奮闘記」について

市民の農的なものへの回帰を捕らえているので、うまく書き直すと多くの読者を獲得できる可能性があるかと判断しました。Berry類から他の植物にぶれてゆく傾向がありましたが、Berry類だけで1冊子、他の記事は別の冊子という具合にすべきでしょう。

「奮闘記」という割には奮闘している記述が少ないようなので、タイトルは変えるべきでしょう。Berry類の掲載順位も出現順、またはアルファベット順、などのいずれかで統一すべきでしょう。

出現順の場合は、新しいBerry類に出会うたびの心の動きやそこにまつわる日常生活のちょっとしたできごとなどを日記風にそれぞれの写真全てに付記すべきでしょう。アルファベット順または50音順の場合、土作り、播種、肥料、植え替え、収穫などの生育カレンダーと注意点などを付記するべきでしょうね。

**** 伊藤篤(オライリー・ジャパン)**

「無添加生活やってみよう」これはおもしろかった。各トピックに、もっと詳細な情報や記述があればなおいい。弊社のHacksやクックブックのようなスタイルにして、スキンケアHacksやスキンケア・クックブックにするとおもしろいかも。

「すばらしき哉IT業界」もおもしろかった。本として書かれており、完成している。「三世代」のところは特に興味深かった。

「株価予想のためのフィルタ技法入門」もおもしろい。実用的という点では、レベルが高すぎると思うが。

2-7. 日本語プログラミングコンテストの支援・後援

前回は私が実質的主催者だったが、今回は後援に回り、賞金スポンサに徹することにした。

日本語プログラミング研究会飯箸泰宏幹事。

主催: 2007日本語プログラミングコンテスト連絡会
会長: 阪井和男 明治大学教授

実際上の主催者は若き言語作者たちである。
兼宗、酒徳、馬場の3氏

参加作品公募中。1月末まで。審査は各言語ごと。

オンラインソフト紹介サイト
まど の もり
窓の杜
WINDOWS FOREST
同ジャンルソフト記事
● 同じ「学習・プログラミング」ジャンルのソフト記事を読む
最新のNEWS記事
・ 12月14日 ・
● フラクタル図形の描画機能が追加された定番タッチソフト「Paint.NET」v3.20
● Gmailにも対応する迷惑メール削除支援ソフト「めるちゃか」
● Flickr公式の写真アップロードツール「Flickr Uploadr」の最新版v3.0が公開
● 3件のセキュリティ問題に対応した「QuickTime」v7.3.1が公開
● 工画堂スタジオの市販ゲーム「火星計画」が広告付きフリーソフトとして公開
・ 12月13日 ・
● 「Google Toolbar」v5 英語版が公開、ツールバー上でガジェットを利用可能に

NEWS (07/12/04 18:05)

同じジャンルのソフトを探す
学習・プログラミング

日本語プログラミング言語の活性化を図るプログラムコンテストが開催

アイデア勝負や実力勝負など3種類の課題が用意されている

2007日本語プログラミングコンテスト連絡会は1日、日本語プログラミング言語によるプログラムコンテスト“2007日本語プログラミングコンテスト”を開催した。参加できる作品は、日本語で記述できるプログラミング言語「なでしこ」「ひまわり」「TTSneo」「葵」「プロデル」「ドリトル」のいずれかで作成されているものに限られる。

同コンテストでは3つの課題が設けられている。1つ目は、一見すると詩や小説としか思えない文章が実は動作するプログラムになっているというもの。2つ目は、各言語で用意されている描画関連の命令を利用してプログラム上で絵を描くというもの。3つ目は、普段仕事やプライベートで実用しているプログラムで、実際に利用している際のエピソードを付加できるというもの。

応募期間は12月1日より2008年1月31日までとなり、その後1カ月間の審査期間を経て3月中に結果が発表される。入賞作品の作者には現金1万円や図書券が贈られるとのこと。



“2007日本語プログラミングコンテスト”の公式ホームページ

2-8.ゼミ生の架空会社による学習の試み

社長 1人
副社長 2人
平社員 4人

事業計画

- ・お祭りサイトの運営協力
すでに2000円の入金があった。
- ・ネットアンケートビジネス
システム構築中

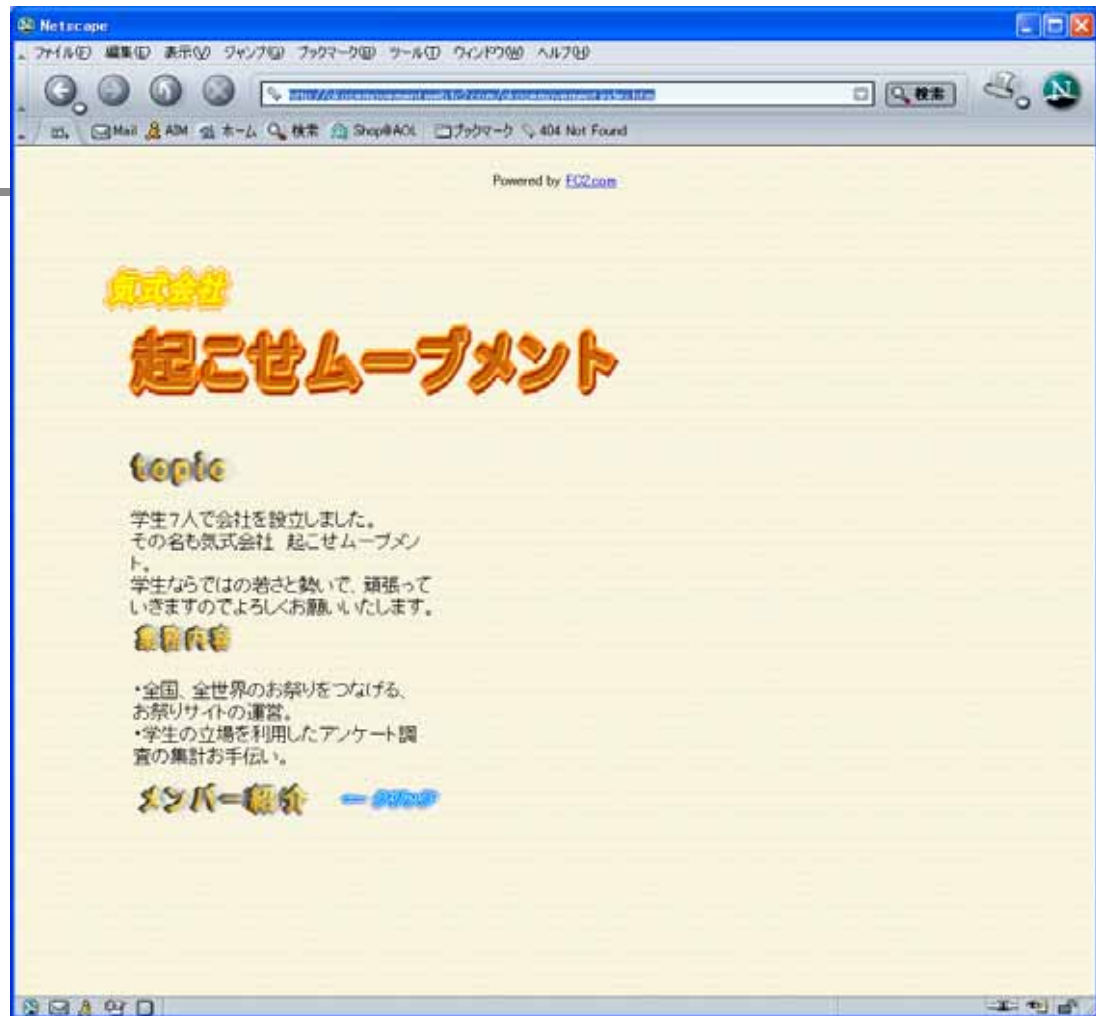
民学コラボ

- ・お祭りサイトの構築
- ・ネットアンケート

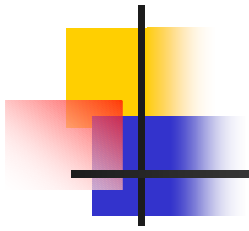
これらのシステムはSHで実行、ゼミ生はアルバイトとして参加。

→SHの予算でSHの資産に

学生は勉強と成果を優先的に(たぶん、当分の間、無料で)使用させていただく。



<http://okosemovement.web.fc2.com/okosemovement.index.htm>



終わり